

## 感染症の場合の登園について

保育園では、お子さんが感染症にかかった場合は、本人の健康の回復及び他の園児への感染を予防するため一定期間登園を控えていただいています。医師の診断及び治療を受けられ、病気が治癒、又は他の園児への感染のおそれがなくなりましたら別紙の「登園許可証明書」を園へ提出してください。お子さんとまわりの園児の健康を守るためにご理解とご協力をお願いいたします。

### 「登園許可証明書」が必要な感染症

病名	症状・特徴	登園の日安
麻疹 (はしか)	発症初期は高熱、咳、鼻水、結膜充血、目やに等の症状。発熱は一時期下降傾向を示すが、再び上昇し、この頃口の中に白いプツプツ(コプリック斑)がみられる。その後、顔や頸部に発しんが出現する。	解熱した後3日を経過するまで。
風しん	発しんが顔や頸部に出現し、全身へと拡大する。発しんは紅斑で融合傾向は少なく、約3日間で消え、色素沈着も残さない。発熱やリンパ節腫脹を伴うことが多く、悪寒、倦怠感、眼球結膜充血等を伴うこともある。	発しんが消失するまで。
水痘(みずぼうそう)	発しんが顔や頸部に出現し、やがて全身へと拡大する。発しんは斑点状の赤い丘しんから始まり、水疱(水ぶくれ)となり、最後は痂皮(かさぶた)となる。	すべての発しんがかさぶたになるまで。
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ、ムンプス)	発熱と唾液腺(耳下腺・顎下腺・舌下腺)の腫脹・疼痛。 発熱は1～6日間続く。唾液腺の腫脹は、まず片側が腫脹し、数日して反対側が腫脹することが多い。発症後1～3日でピークとなり、3～7日で消える。腫脹部位に疼痛があり、唾液の分泌により痛みが増す。	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫脹が発現してから5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで。
インフルエンザ	突然の高熱が出現し、3～4日続く。倦怠感、食欲不振、関節痛、筋肉痛等の全身症状や、咽頭痛、鼻汁、咳等の気道症状を伴う。	発症後5日を経過し、かつ、解熱した後3日を経過するまで。
新型コロナウイルス感染症	無症状のまま経過することもあるが、有症状者では、発熱、呼吸器症状、頭痛、倦怠感、消化器症状、鼻汁、味覚異常、嗅覚異常などの症状がみられる。	発症後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過するまで。
咽頭結膜熱(プール熱)	主な症状は、高熱、扁桃腺炎、結膜炎である。プール熱と呼ばれることがある。	発熱、充血等の主な症状が消失した後2日を経過するまで。
流行性角結膜炎	目の充血、目やにが出る。幼児の場合、目に膜が張ることもある。片方の目で発症した後、もう一方の目に感染することがある。	医師が感染のおそれがないと認めるまで。

病名	症状・特徴	登園の目安
百日咳	特有な咳(コンコンと咳き込んだ後、ヒューという笛を吹くような音を立てて息を吸うもの)が特徴で、連続性や発作性の咳が長期に続く。夜間眠れないほどの咳が見られることや、咳とともに嘔吐することもある。発熱することは少ない。	特有な咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌療法が終了するまで。
溶連菌感染症	扁桃炎、伝染性膿痂しん(とびひ)、中耳炎、肺炎、化膿性関節炎、骨髓炎、髄膜炎等の様々な症状を呈する。扁桃炎の症状としては、発熱やのどの痛み・腫れ、化膿、リンパ節炎が生じる。舌が莓状に赤く腫れ、全身に鮮紅色の発しんが出る。また、発しんが治まった後、指の皮がむけることがある。	抗菌薬内服後24～48時間経過していること。
感染性胃腸炎 ノロウイルス感染症 ロタウイルス感染症 アデノウイルス感染症	嘔吐・下痢(ロタの場合はしばしば白色便を伴う)。脱水を合併することもある。	嘔吐、下痢の症状が治まり、普段の食事ができること。
腸管出血性大腸菌感染症(O157、O26、O111等)	無症状の場合もあるが、多くの場合は、水様下痢便や腹痛、血便がみられる。尿量が減ることによって出血しやすくなり意識障害を来す溶血性尿毒症症候群を合併し重症化する場合がある。	医師が感染のおそれがないと認めるまで。
RSウイルス感染症	呼吸器感染症で乳幼児期に初感染した場合の症状が重く、特に生後6か月未満の乳児では重篤な呼吸器症状を生じ、一度かかっても十分な免疫が得られず何度も罹患する可能性があるが、再感染・再々感染した場合には徐々に症状が軽くなる。	呼吸器症状が消失し全身状態が良いこと。
ヒトメタニューモウイルス(hMPV)感染症	咳、熱、鼻水など風邪症状にとっても似ている。悪化するとゼイゼイと言う呼吸や呼吸困難の症状がでることがある。	呼吸器症状が消失し全身状態が良いこと。
マイコプラズマ感染症	咳、発熱、頭痛等の風邪症状がゆっくり進行し、肺炎を引き起こす。	発熱や激しい咳が治まっていること。
手足口病	口腔粘膜と手足の末端に水疱性発しんが生じる。また、発熱とどの痛みを伴う水疱(水ぶくれ)が口腔内にでき、唾液が増え、手足の末端、おしり等に水疱(水ぶくれ)が生じる。	発熱、のどの痛み、下痢が治まり、普段の食事ができること。(全身状態が良いこと)
ヘルパンギーナ	高熱、のどの痛み等の症状がみられる。また、咽頭に赤く粘膜しんが見られ、次に水疱(水ぶくれ)となり、間もなく潰瘍となる。高熱は数日続く。	発熱、のどの痛み、下痢が治まり、普段の食事ができること。(全身状態が良いこと)
伝染性紅斑(りんご病)	感染後5～10日に数日間のウイルス血症を生じ、この時期に発熱、倦怠感、頭痛、筋肉痛の軽微な症状がみられる。その後、両側頬部に孤立性淡紅色斑丘しんが現われ、3～4日のうちに融合して蝶翼状の紅斑となるため俗に「りんご病」と呼ばれる。	全身状態が良いこと。
その他		